



R. I. 第2630地区 高山中央ロータリークラブ WEEKLY REPORT

2013～2014 年度 高山中央 RC 会長テーマ
「楽しい時(例会)が素晴らしい人生(ロータリー)を創る」

◆会長 山本 辰男 ◆幹事 中田 専太郎 ◆会報委員長 前越 路子 ◆会報担当 伊藤 正隆

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 996回	51名	50名	44名	—	88.00%
前々回 994回	51名	50名	40名	3名	86.00%

<点 鐘> 会長 山本 辰男
<ロータリーソング> それでこそロータリー
<高山中央ロータリークラブ職業倫理基準>

<本日のゲスト>
前鈴鹿市教育長 水井 健次 様
鈴鹿西ロータリークラブ 中瀬 弾正 様

<会長の時間> 会長 山本 辰男



三寒四温の言葉通りの季節です。また朝昼の温度差が大きく体調を崩す方もたくさんいらっしゃいます。お気を付け下さい。また沖縄では海開き、この辺では雪中人参やキャベツなどの甘みを増した野菜が雪の下から掘り出されています。日本も広いですね。

今週も話題に事欠かない週で、ウクライナ・スタップ細胞やマレーシア航空の行方不明事件など事態を見守っていかねばならない事件が起きています。良いほうに解決することをお祈りします。

昨日、岐阜県聴覚障害者協会の主催する耳の日フェスティバルの式典に出席して来ました。聴覚障害の方や家族の方、手話サークルの方などで盛会でした。高山で開催されるのは15年ぶりだそうです。来賓の挨拶も事前に届けてあり、文字映像と手話通訳での式典でした。その挨拶の中に、国連の「手話は言語である」と明記された障害者権利条約が日本でも批准され効力が生じたとの事です。世界共通の手話が完成すると良いですが。

もう一つ先日高山で「石なぎ（ハタ科）」による食中毒が発生しました肝臓を食べたのが原因です。早速調理関係者

による勉強会が行われました。過剰なビタミンAの摂取で1960年に食用禁止になっています。私はまったく知りませんでした。肝臓5g～10gの摂取で中毒となる可能性があります。他にもサメ・マグロ・カツオなどの大型魚の肝臓にもビタミンAが多く含まれますので気を付けてください。その他、胆のう毒（鯉など）、卵巣毒（ナガズカ）、血清毒（うなぎなど）など有りますご注意下さい。本日の例会はクラブ管理運営委員会の担当例会です永家委員長よりお願いします。これで会長の時間を終わります。

<幹事報告> 幹事 中田 専太郎

- ◎RI本部より
 - ・ザ・ロータリアン誌
- ◎国際ロータリー第2630地区ガバナー事務所より
 - ・地区大会記録誌
- ロータリー米山記念奨学会より
 - ・ハイライトよねやま168号
- ロータリー情報研究会より
 - ・ロータリー情報冊子のご案内



<本日のプログラム>
クラブ管理運営委員会 永家 委員長



<キャリア教育について>

前鈴鹿市教育長 水 井 健 次 様

皆さんこんにちは、鈴鹿市からやって参りました水井です。今日は、歴史と伝統ある高山中央ロータリークラブの皆さん方に、次世代を担う青少年の育成について卓話をさせて頂きます事を大変嬉しく思っております。最初にお断りいたします。御手元の資料は、時間の都合でお話しできない部分についてご理解いただきたく、配布させていただきました。卓話中、全ての資料を取り上げられないことをお断りしておきます。それでは、早速お話しに入りたいと思います。



今日は、日本の青少年の状況とキャリア教育の必要性と目的、次に、鈴鹿市におけるロータリークラブや市民の皆様による出前授業等の取組についてご紹介し、キャリア教育の意義や重要性和学校支援のあり方について皆様方と一緒に考えて参りたいと存じます。

まず、若者や生徒の状況からお話しして参りたいと思います。

2012年の厚生労働省調べによりますと、若年無業者いわゆる仕事に就かないニートについては63万人、〈10年間で1.5倍〉また、2013年の総務省調べによると15歳から34歳の若年人口のうち、正社員になりたくない人いわゆるフリーターは182万人（若年層の6.8%）存在し、（10年間で約3倍）となっており、結果として近年、「学校から社会や職業への移行が円滑に行われない」状況が続いており、我が国の大きな社会問題となっております。キャリア教育の必要性が叫ばれる由縁もここにあります。ところでこういったことが起こる原因はどこにあるのでしょうか？1つは、20年前ぐらいから起こっている日本の経済不況です。グローバル経済の中で、日本の経済状況が大変厳しい環境にさらされ、企業もぎりぎりのところで経営を迫られており、できるだけ人件費を節約せざるを得ない状況で、その結果、働いている人の1/3が非正規雇用（パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託）で、若者の約1/2が非正規雇用という状況になっているのです。当の若者にはこういった厳しい状況乗り越えて行く資質が望まれるわけですが、若者の状況はどうなっているのか？日本青少年研究所の「日本、アメリカ、中国、韓国4カ国」の高校生の意識に関する比較調査（2013年調べ）では、日本の若者の課題が見えてきます。

◎私は価値のある人間だと思う

日本 36.1% 米国 89.1% 中国 87.7% 韓国 75.1%

◎自分の人生についてははっきりした目標を持っているか（前回2005年調査）

日本 24.7%、米国 54.5%、中国 22.8%

◎将来に不安を感じている。

日本 77.7%、米国 60%、中国 58%、韓国 79%

◎宿題以外に予習復習をする

日本 35.7%、米国 62.1%、中国 67.3% 韓国 22.6%

◎授業中ぼうっとしている

日本 45.8%、米国 20.8%、中国 47% 韓国 32%

◎授業中、積極的に発言をする

日本 14.3%、米国 51.1%、中国 46.2% 韓国 16.3%

◎家庭内でお金の使い方にルールがある

（前回2005年調査）

日本 29.6%、米国 58.2%、中国 70.5%

◎家庭内で門限など時間を守ることにルールがある（前回2005年調査）

日本 46.4%、米国 60.8%、中国 70.3%

こうやって見てきますと、米国や中国の子供たちと比較した場合、日本の若者は（比較的韓国とよく似た傾向を示しており）自己肯定感、学ぶ意欲、将来への目的意識が低く、家庭のしつけも甘いように思います。また、文科省のある調査研究協力者会議の報告書でも「高等学校に入学した動機について」普通科の生徒の60%が「自分の学力とあっている」と回答し、「自分の個性を伸ばすことが出来ると思う」とか「自分のやりたい勉強が出来ると思う」と答えた生徒は15%に満たないという結果がでており、はっきりとした目的意識を持って、進路を選択していないことが指摘されております。このように「近年の厳しい経済状況と、青少年の実態等」からニートやフリーターが増え続け、大きな社会問題となっております。こういった課題を克服するために、我が国の学校では、小学校から大学まで、「学校から社会や職業への移行が円滑に行われるように」キャリア教育に力を入れているのでございます。（大学にキャリア教育を義務付ける）次にキャリア教育の目的について考えてみたいと思います。国の方では、中学卒業時には、生徒が次の4つの力をつけて卒業することを目指しております。

◎一つ目は、自分にもできることがある、やりたいことがある。周りの人や社会のために役立てるといった肯定的な自己理解に基づき、主体的に行動できる「自己理解能力」と自分の思考や感情を律し、将来のために意欲的に学ぼうとする「自己管理能力」をつけること。

◎次に、周りの人とコミュニケーションをとり、共に協力し積極的に将来の社会をつくらうとする「人間関係形成能力」と「社会形成能力」をつけること。

◎更には、課題を発見・分析し、解決できる「課題対応能力」をつけること。

◎最後に働くことの意義を理解し、自分の将来について考えられる「キャリアプラン能力」をつけること。この4つの力をつけて卒業させることをキャリア教育の目標としていますが、これはこれとして、私がキャリア教育に望むことは、「生徒に夢と希望を持って、それに向かって努力してほしい」どんな時も「自分を大切にし、周りの人や仲間を大切にしてほしい」それと、キャリア教育で目指す教育は「自分の村や町を捨てて出て行く教育」ではなく、「自分が生まれ育った村や町を育てる教育」「成人して例えどこに住もうと故郷に誇りと愛着を持つ教育」に意識的に取り組むことが肝要かと考えております。

つまり、生徒が中学を卒業するころまでには、学校の学びをベースに語学等、基礎学力をしっかり付け、学級活動や部活、生徒会活動等を通して仲間づくりに励むと共に、地域に飛び出し、地域の文化や歴史、産業等を自分の目によく見、考え、高山の強みや現状、更には課題について理解し、その上で自分たちの故郷に誇りを持ち、自分たちの手で故郷をよりよく育てて行こうとする意欲や態度を身につけてほしいのです。いわゆる「自分たちの村や町を育てる力」を身につけてほしいと願っています。そのためには私たち大人が真剣に街づくりに取り組んでいる姿を見せることがとても大事なことだと考えております。それとも

う一つ、私は地域学習をもう少し充実させる必要があると思っています。例えば、小学校社会科副読本を使った学習を3年生で完結させないで、「飛騨学」といった形で中学・高校まで系統的・継続的に学べる環境を作れないかと考えております。さらにこれはとても大切なのですが、国際化時代に生きるこれからの生徒には、海外にも目を向ける生徒になってほしいのです。例えば、社会科やいろんな教科の勉強、キャリア教育、留学、更には、高山にやってくる外国の観光客とのかかわりを通して世界の人々と高山の関係を意識し、高山のよさを世界に発信できる生徒に育ててほしいのです。つまり、高山のことをしっかり学びながらも常に世界に目を向け、世界を意識できるいわばグローバルであってローカルな物の見方、「グローバルな物の見方、考え方」も身につけた生徒になってほしいと考えております。学校を支援していただく皆さんにおかれましても、こういった点を踏まえて頂き、ご自身の稼業や企業活動、あるいは街の伝統行事等で引き継いでいってほしいことを始め、高山の文化や歴史・産業の素晴らしさとか、大切さ、更には様々な課題についても生徒に伝えていただきたいのです。更に海外で活躍されている会員の皆さんには、これからの高山と世界との関係についてご自身の経験をもとに語り伝えてやっていただき、生徒の視野を広げてやっていただきたいのです。いずれにしましても、学校に行かれた時には「これからの高山の生徒にはかくあってほしい」とそれぞれ考えていらっしゃると思いますので、まずはご自身のお考えや経験を気軽に話していただくことから始めていただければと思っております。これは、あつかましいお願いかもしれませんが学校に行かれる前にそれぞれの学校がどのような教育目標のもとにキャリア教育を展開しているのか、また皆さんに何を期待しているかといったことを頭の隅においていただいた上で生徒と向き合ってくださいますと、講師派遣事業がより充実したものとなると思っております。

いずれにいたしましても、常にご自身のご経験をベースに、学校の教職員ではできない「本物」を生徒に伝えてやっていただくことが何よりかと存じます。次に、もう一つお願いしたいことがあります。それは、キャリア教育は、学校教育全般を通して教職員が指導していくわけですが、教職員だけでは限界がありますので、人材・協力者を広く地域に求めることとなります。実際、地域の協力者の支援があれば、生徒にできる限りさまざまな職種や、高山ならではの産業、歴史、文化（伝統行事等）に触れさせることができ、高山の強みや課題に気づかせてやれるのです。学校は学校のキャリア教育の計画と地域の行事やロータリークラブの講師派遣事業等をうまくリンクさせようと、キャリア教育を年間計画の中に位置づけ、事前にロータリークラブなど地域の協力団体に連携をとってくださると思っておりますが、その時は学校の申し出を無理のない範囲で受け止めてやっていただきたいのです。そして、学校がロータリークラブを始めPTAや地域の子供会、スポーツ少年団、各企業・事業所・商店会、自治会、老人会、民生児童委員等あらゆる分野の方々との絆を大切にしようとしていることに力を貸してやっていただきたいのでございます。ここで私ども鈴鹿市の例をご紹介します。鈴鹿市では、こういった教育環境を市全体で整えるために平成17年から当時の市長を中心に、市長部局に青少年対策推進本部を設け、「学びのネットワーク」と「安全安心のネットワーク」づくりに取り組んでまいりました。特に、「学びのネットワーク」の取り組みの中では、学ぶ意欲をつけるには、基礎学力をしっかりと身につけることが大事ということで少人数学級の編成に努めるとともに、地域の方々の協力を得て、読み聞かせや、丸つけなどご協力をいただく学習ボランティアの事業に取り組んでまいりました。また、安全安心の

ネットワークでは、毎朝、街角や踏切、学校前等に立っていただき、「あいさつ運動や」「声かけ」など見守り活動に取り組んでいただいております。

更に、「夢工房達人に学ぶ」事業ではその道一筋で取り組んでこられた達人の方々（51名）に直接各学校にお越しいただいて、それぞれの方々の特技や生きざまをご披露いただき、子どもたちが「生きることの素晴らしさ」に気づき、夢や希望を持って日々の学習に意欲的に取り組めるよう努めていただいております。特に、中学校の取り組みといたしましては、キャリア教育の一環として平成11年度より市内の企業や各種事業所の協力を得て職場体験学習を実施してまいりましたが、平成14年度からロータリークラブの皆さんの発案で、職場体験学習に出かける前後に講師派遣事業「おじさん先生」の取り組みを実施していただいております。この「おじさん先生」の取り組みは、夢工房の取り組みと違って、異業種の方々の集まりであるロータリークラブの特色を活かして保育所の園長さんを初め、各種商店の御主人、造園業、企業経営者、運送業の方、お医者さん、設計士さん、介護施設関係の方々を始め、その他様々な職種のお皆様方にご協力いただける事業です。これは、昨年のT中学校の実例ですが、舞踊家、印刷業、不動産業、建設業、保育士、水産物販売業の方にお越しいただいてお話しいただきました。（資料がありますから是非目を通してやってください）このように「おじさん先生」は多彩なメンバーによる出前授業なので、様々なお立場、経験から働く喜びや、厳しさ、人生の夢等について語っていただくことはもとより、「勉強しないと困るのは自分自身であるとか、長い人生の中で、実に多くの人たちに助けられてきたとか、苦勞に負けずに一生懸命働いて自分の仕事や稼業を成し遂げてきた」等の苦勞話もしていただきます。その他子どもたちが職場体験に出かける前の心得、つまり、あいさつをはじめとする礼儀とか、周りの人への感謝の気持ちを持つこと、身の回りや職場を整理することの大切さ等職場に出かけるときに気をつけるべき点についても教えていただいております。「おじさん先生」の生徒の感想文

- ◎「どんなことも一つのことを成し遂げるには、努力が必要なのだ」
- ◎「自分にとって、今日一日、満足できる一日にしたい」
- ◎「将来に向けて中学、高校時代にできることをしっかりやっていきたい」
- ◎「毎日の何気ない、あいさつがとても大事だとあらためてわかりました」
- ◎「思いやりや心遣いを忘れず、みんなで助け合っていくことを大切にしていきたい」など平凡ですが、素直に自分の姿や心を見つめ、さらに成長して行こうとする気持ちや意欲が伺えます。そして、それぞれの生徒が自分の夢を持ち、夢を実現させるために、目標を持って日々の学習に取り組もうとする意欲や姿勢も見られることが私どもに取って何よりも有難い、嬉しいことなのでございます。

このように、「おじさん先生」の取り組みは、生徒にとって、「将来に向けて自分がどう生きていくか」を考えるまたとないよい機会となっており、今や中学校のキャリア教育の一環としてなくてはならない大事な取り組みになっています。そこでこの取り組みを鈴鹿市全体で、計画的、組織的に運営していきたいとのロータリークラブの役員さんのご意志で、22年度からは、年度当初にロータリークラブの役員さんと全ての中学校の校長先生、更には、教育長はじめ教育委員会事務局担当課の職員が一堂に会し、「おじさん先生」の運営・活用等について打ち合わせ、意見交換をする機会を設けるようにしました。このことにより、学校側は学校の年間計画に基づいて実施時期や、お願

いしたい内容を事前に要望できます。ロータリークラブ側は学校の要望を受け止め、いつ頃どのような支援が必要で、それに対応するためのスタッフについて事前に検討していただくとか、学校や教育委員会に対する要望を出していただいております。

ロータリークラブの皆さんの熱い思いのお陰で「おじさん先生」の取り組みは年々拡大充実してきました、10年前には、1校から始まった取り組みですが、今では市内の9校の中学校で実施していただいていると聞いて喜んでおります。ロータリークラブの取組を中心に鈴鹿の取組をご紹介します、キャリア教育の重要性や意義について考えて頂いたわけですが、実は、高山中央ロータリークラブにおかれましても講師派遣事業を通して学校支援を実践され、大きな成果を上げておられます。また、国中だより「夢たまご」で知りましたが、「我が校はキャリア教育をしっかりとやる」と宣言し、学校の目指すところをわかりやすく発信し、学校の取組を「見える化」しようと頑張っておられ

る加藤校長先生のような立派な先生方もおられます。明日は、教育委員会の皆さんを交えてキャリア教育と学校支援のあり方について各種団体の方々ともお話しさせていただく予定ですが、私の感想はこの街の取組は、大変進んでおり素晴らしい教育環境が出来つつあると思います。どうかロータリークラブの皆様方におかれましては、高山中央ロータリークラブの次世代育成の理念や実践力・行動力を生かしキャリア教育はもとより、地域ぐるみの教育・学校支援・学校づくりの核となってお活躍いただくことを心からご期待し、私のお話を終わります。ご清聴ありがとうございました。



<ニコニコBOX>

今日は、水井先生のカバン持ちで来ました。青少年委員会に所属していた時は、伊藤さん・永家さんに大変お世話になりました。
鈴鹿西RC 中瀬 弾正 様

もう3月も半ばです。ようやくあちらこちらに春の息吹を感じるようになりました。水井健次先生、中瀬弾正様のご来訪を心より歓迎致します。本日はよろしくお願ひします。ぜひごゆっくりと高山をお楽しみください。

理事役員一同

本日は、水井先生・中瀬さんには遠方のご来訪頂きありがとうございます。水井先生、卓話をよろしくお願ひ致します。また、先日次女が結婚致しました。これで、3人の子供全てが結婚し親としては少しホッとしています。
永家 将嗣

水井先生には、地区の委員会でお世話になりました。中瀬様のご来訪を歓迎してニコニコへ。
伊藤 正隆

明日は、孫のお食い初めで「はぐるま会」欠席です。出席の皆様頑張って下さい。
新宮 一郎

昨日の雫宮祭、皆様方のご協力により盛大に無事終える事が出来ました。ありがとうございました。
都竹 太志

本日 早退します。

永田 富次